

心和む懐かし童話

瑞穂 大人向けの読み聞かせ

大正から昭和の童話や童謡を語りや歌唱で披露する「大人のための読み聞かせ」が十八日、瑞穂区汐路町の越原記念館であった。

幼少期に親しんだ童話や童謡を聞き、懐かしさや新しい発見をしてみらおうと学校法人越原学園が開催した。

大正の児童雑誌「赤い鳥」や昭和の保育雑誌「キンダーブック」

などから十一作品を披露。名古屋女子大短期大学部保育学科の講師である児玉珠美さんが



朗読Ⅱ写真。名古屋女子大中学校・高校の生徒らが歌った。参加した約百人が「かなりあ」や「月の砂漠」などを楽しんだ。

守山区のパート従業員勝野有子さん(五七)は「ピアノ伴奏も歌も良かった。心が和んだ」と話した。

同館では「時を奏でる雑誌たち」と題した企画展も開かれ、明治から昭和までの雑誌百三十点が展示されている。来年二月十三日まで。(竹谷直子)